



Title	Fermi Surface Properties of Rare Earth and Uranium Compounds Grown by the Self-Flux and Chemical Transport Methods
Author(s)	Aoki, Dai
Citation	大阪大学, 2000, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3169102
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	青木 大
博士の専攻分野の名称	博士(理学)
学 位 記 番 号	第 15141 号
学 位 授 与 年 月 日	平成12年3月24日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 理学研究科物理学専攻
学 位 論 文 名	Fermi Surface Properties of Rare Earth and Uranium Compounds Grown by the Self-Flux and Chemical Transport Methods (自己フラックス法・化学輸送法によって育成された希土類・ウラン化合物のフェルミ面の性質)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教授 大貫 悅陸
	(副査) 教授 武居 文彦 教授 竹田 精治 助教授 播磨 尚朝 助教授 摂待 力生

論 文 内 容 の 要 旨

希土類化合物・ウラン化合物のf電子は、磁気秩序・四重極秩序・メタ磁性・伝導電子の重いサイクロトロン質量・超伝導など、さまざまな物理的性質を示す。申請者は、 RPb_3 ($\text{R} = \text{Pr, Sm, Eu, Gd, Yb}$)、 YbIn_3 、 UAl_3 、 UGa_3 、 UX_2 ($\text{X} = \text{P, As, Sb, Bi}$)、 UCd_{11} の純良単結晶を育成した。申請者の知るかぎり、これらの単結晶はいずれも世界最高の純良性を持つ。

このうち PrPb_3 においては、1Kから降温とともに、サイクロトロン質量が 1.6m_0 から 4.0m_0 まで増大することを見出した。これは0.4Kで起きる反強四重極秩序に起因する。このような反強四重極秩序によるサイクロトロン質量の増大は、これまでに例がなく初めて観測された現象である。さらに0.6K以下、70kOeにおいてメタ磁性転移を見出した。これは、反強磁性状態から常磁性状態への相転移に対応する。

同じ希土類化合物において、希土類イオンの価数の変化がフェルミ面に与える影響も興味深い。通常、希土類イオンの価数は3価であるが、 YbPb_3 、 EuPb_3 、 YbIn_3 は価数が2価の金属である。ドハース・ファンアルフェン (dHvA) 効果から決定したフェルミ面は、対応する LaPb_3 、 LaIn_3 のフェルミ面と大きく異なり、価数2価で計算したバンド計算と良く一致する。

ウラン化合物 UAl_3 、 UGa_3 、 UCd_{11} 、 UX_2 ($\text{X} = \text{P, As, Sb, Bi}$) の5f電子の研究も行なった。5f電子は一般に、遍歴な性質を持つ3d電子と局在的な性質を持つ4f電子の中間的な電子状態を持つと考えられる。実際のウラン化合物の磁性は、磁気秩序温度が0K付近から300K、磁気モーメントも $0.02\mu_\text{B}/\text{U}$ から $3\mu_\text{B}/\text{U}$ と極めて多彩であり、興味深い現象も多く見出されている。

申請者の育成したウラン化合物のうち、 UGa_3 、 UAl_3 、 UX_2 ($\text{X} = \text{As, Sb, Bi}$) については、dHvA効果の測定に成功した。

UX_2 では、ウラン化合物としては初めて2次元フェルミ面すなわち円筒状フェルミ面を見出した。 UBi_2 のフェルミ面は、球状フェルミ面と円筒状フェルミ面の2種類から構成されている。これらのフェルミ面は、 USb_2 あるいは UAs_2 では4種類の円筒状フェルミ面に変ぼうする。このフェルミ面の変化は、薄い磁気ブリルアンゾーンで良く説明できる。また、 UX_2 のフェルミ面の2次元性は、遍歴した5f電子を含むU面の伝導電子に起因する。そのため、サイクロトロン質量は大きい。 USb_2 のdHvA効果では、磁気ブレークスルー(磁気貫通、磁気破壊)による振動も検出した。サイクロトロン質量は極めて大きく、しかも 110kOe で 38m_0 であったのが 160kOe では 30m_0 と磁場依存性

を持つ。これは、磁場、温度依存性を持つ反強磁性エネルギー・ギャップを伝導電子がブレークスルーしているためである。

論文審査の結果の要旨

希土類・ウラン化合物の磁性を担うf電子と伝導電子の多体効果がからんだ、重い電子系の研究である。

RPb_3 、 RIn_3 (R : 希土類) 及び UX_2 (X = Bi、Sb、As、P) などの多数の純良単結晶をフラックス法と化学輸送法で育成した。それを用いて明らかにしたことは次の通りである。

- (1) $PrPb_3$ の四極子秩序に伴う伝導電子の質量増強と四極子秩序相
- (2) $YbPb_3$ 、 $EuPb_3$ 及び $YbIn_3$ における 4f電子が示す 2 価の性質
- (3) 正方晶の [001] (c 軸) 方向に長い UX_2 の磁気構造を反映した 2 次元フェルミ面などである。 UX_2 ではウランの 5f電子を含むウランの層が伝導面を形成していて、重い電子系をつくっている

以上のことから本論文

Fermi Surface Properties of Rare Earth and Uranium Compounds Grown by the Self-Flux and Chemical Transport Methods

は博士（理学）の学位論文として十分価値あるものと認める。